

「生き生きサマーキャンプ」 事業報告

1 趣旨 海での活動を中心とした、海と森林、河川とのつながりを体感できる自然体験活動を通じて、児童生徒の森林環境への興味・関心を高めさせる。また、異年齢集団による共同生活によって自己の課題と向き合い、仲間と協力し乗り越えさせることで、自己肯定感や生きる力を育てる。

2 期日 令和5年 8月17日(土)～20日(火)3泊4日
(学生リーダーは8月16日(金)～20日(火)4泊5日)

3 会場

大分県立香々地青少年の家 キャンプ場・宿泊棟

〒872-1202 豊後高田市香々地5151番地

TEL 0978-54-2096 FAX 0978-54-2152

4 参加者

県内の小学5年生から中学2年生までの児童・生徒25名

(小5:5名、小6:8名、中1:11名、中2:1名)

5 活動プログラム

	午前	午後	夜
8/16(金) 〈学生研修〉	オリエンテーション 活動プログラム確認	竹の水鉄砲作り テント設営の研修	野外炊飯 ミーティング
8/17(土) 〈1日目〉	出合いの集い(自己紹介) アイスブレイク、班結成	テント設営、フードハンティング ラリー、野外炊飯	星空観察 1日の振り返り
8/18(日) 〈2日目〉	朝食作り(カートンドック) いかだ活動・海水浴	テント片付け 竹の水鉄砲作り	森林環境学習 1日の振り返り 登山に向けて
8/19(月) 〈3日目〉	登山(頂上で夢を叫ぶ)	すいかわり 野外炊飯(焼きそば・焼きとうもろこし・焼き鳥等)	花火 1日の振り返り 成果発表会準備
8/20(火) 〈4日目〉	思い出アイテム作り(写真立て)	成果発表会・別れの集い	

☆活動の様子

- ・自己紹介ゲーム後、互いにキャンプネームを呼び合った。
- ・海の生き物の名前を班で探して集めるアイスブレイクを行った。緊張も和らぎ、協力して集めることができた。
- ・テント設営では、3～4人ごとに1張のテントを設営した。互いに声をかけ合いながら協力して組み立てることができた。
- ・フードハンティングラリーでは、班ごとに宝箱の在処が書かれた暗号文を解読し、食材カードを見つけることができた。
- ・野外炊飯でカレーライスを作った。自分の役割を果たし、協力する姿が見られた。夕日を背景にカレーライスを食べ、たくさん笑顔が見られた。
- ・鍋点検では、合格するまで何度もチャレンジをする姿が見られた。
- ・星空観察では、夏の星座を中心に観察することができた。
- ・1日の振り返りを行い、言われてうれしかった言葉や翌日のめあてなどを話し合うことができた。



☆指導のポイント

- ・参加者の緊張を軽減し、集団に馴染めるよう学生リーダーを中心に笑顔と積極的な声かけを意識した。
- ・参加者が集団に少しずつ馴染んでいけるようにテント設営、フードハンティングラリーや野外炊飯など協力する場面を多く設定した。
- ・振り返りの時間に、翌日のめあてを考えさせ、しおりに記入させた。

<2日目> 海活動・竹の水鉄砲作り・森林環境学習

☆活動の様子

- ・朝食はカートンドッグ。アルミホイルでパンを包んで牛乳パックに着火。熱々のソーセージパンの完成。
- ・海の活動では、はじめにいかだ活動を行った。初めていかだに乗る参加者もいたが、「大丈夫」「ゆっくりでいいよ」など励まし合う姿が見られた。休憩後、水上トランポリンと海水浴に取り組んだ。
- ・竹の水鉄砲作りでは、竹をのこぎりで切るところからスタートした。遠くまで水を飛ばすにはどうすればよいか試行錯誤しながら取り組んでいた。



- ・森林環境学習では、海と森のつながりについてクイズを通して学んだ。「森と海がつながっていることを初めて知った」という声も聞かれた。

☆指導のポイント

- ・2日目は、子ども達がより主体的に動けるように、学生サポーターは支援しすぎず、言葉かけを工夫することを確認した。
- ・班の一員として係活動や自分の役割を果たせるように支援した。
- ・熱中症対策として、適宜休憩と水分補給を行った。



<3日目> 登山～頂上で夢を叫べ～

☆活動の様子

- ・朝の健康観察では、全員ぐっすりとお布団で寝ることができたことを確認した。
- ・出発する前に、登山の注意事項を再度全員で確認をし、気持ちを高めた。
- ・登山口に到着後、全員で円陣を組み気持ちを一つにした。
- ・頂上付近で風が強く吹いていたので、ゴールを頂上の手前に設定をした。そこで一人ずつ、将来の夢や思っていることを叫んだ。
- ・険しい道もあったが、手をつないだり、励まし合ったりすることで全員無事に下山することができた。
- ・休憩の後、すいかわりと野外炊飯を行った。野外炊飯では、焼きそばなどを協力して作ることができた。
- ・夜は、花火をして親睦を深めた。
- ・1日の振り返りでは、登山の時に言われたうれしい言葉を各班からたくさん聞くことができた。



☆指導のポイント

- ・体調を整えて登山に望めるように、8時間以上の睡眠とゆっくり朝食を食べる時間を確保した。
 - ・登山では、安全に登れるよう声かけや休憩を適宜行った。下山時には滑らないように言葉かけや指さし確認を行うことで怪我なく下山することができた。
- 下山後に強雨が降ったため、予定を変更して香々地青少年の家に戻り、昼食をとり休憩の時間を設けた。



<4日目> 成果発表会・別れのつどい

☆活動の様子

- ・思い出アイテム作りでは、どんぐりなどの自然物を使って写真立てを作った。
- ・別れの集いでは、活動を振り返り協力できたことや楽しかったことなどを発表した。
- ・写真立てを飾り、保護者の方に見ていただいた。



☆指導のポイント

- ・成果発表会では、話型をあらかじめ決めずに行うことで、子ども一人一人の思いや工夫が溢れる発表となった。
- ・別れの集いでは学生サポーターへ色紙をプレゼントし、感謝を伝える場とした。



6 参加者の声

(子ども)

- ・山登りでは、協力して励まし合いミッションクリアすることができて本当にうれしかった。
- ・初めてあんな大きい山に登った。山の頂上で叫んだことが気持ちよかった。とても達成感を感じた。
- ・森と海がつながっていることを初めて知って勉強になった。
- ・鍋点検は厳しかったけど、合格した時は頑張ってたよかったと思った。
- ・みんなでかけ声をかけるとまっすぐいかだが進むことがわかった。
- ・フードハンティングラリーでは、みんなで協力してカレー作りに必要な物を見つけることができた。
- ・4日間を通して、とても成長することができた。

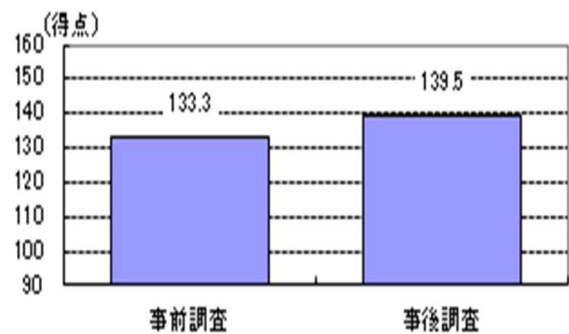
(学生ボランティア)

- ・子ども達がミッションを通して成長していく姿を見られたのは、とても貴重な経験ができたと思う。
- ・班の枠をこえて仲良くなっている姿や、仲間と一緒に支え合い、協力する姿などを見られてよい経験になった。

7 成果

- ・「力を合わせてみんなでミッションチャレンジ」を合い言葉に、参加者の発達課題に適した集団活動を多く設定できた。
- ・自己肯定感を育むために、活動行う上でプラスの言葉がけを意識させた。所員と学生サポーターはもちろんのこと、子ども同士でプラスの言葉が出た時は全体で取り上げ共有をした。また、1日の振り返りで他の人の「うれしかった言葉」を聞くことで、どんな言葉がけが励ましの言葉になるか明確になった。3日目の登山では、マイナスの言葉ではなくプラスの言葉をたくさん聞くことができた。
- ・参加者アンケート（IKR 評定）では、心理的社会的能力が 3.3 ポイント、徳育的能力が 1.4 ポイント、身体的能力が 1.5 ポイント、生きる力は 6.2 ポイント向上。
- ・職員の役割分担の明確化により、4日間スムーズに運営ができた。

生きる力の変容



8 課題

- ・山登りや海活動は、天候に大きく左右されるものなので、急に天気が変わった時の対応まで事前に十分シミュレーションをしておく必要がある。
- ・今回熱中症対策を十分に行ったが、今後はさらに気温が上がる可能性があるため、さらに時間に余裕を持った活動プログラムを計画する必要がある。